

東行庵公衆トイレデザインコンペ

審査結果及び講評

令和5年3月

東行庵公衆トイレデザインコンペ審査委員会

令和4年11月1日に募集公告を行った「東行庵公衆トイレデザインコンペ」に関する審査結果及び講評を記します。

令和5年3月30日

東行庵公衆トイレデザインコンペ審査委員会

委員長	田尾	繁
委員	金子	敦子
委員	柴田	進
委員	北島	洋平

第1 審査方法の概要

提出された提案作品等に対して一次審査と二次審査の二段階審査を実施し、最優秀作品等の選定をしました。一次審査では各委員それぞれ4票の投票権を持ち、票を獲得した全ての提案作品を一次審査通過作品としました。

次に、二次審査は一次審査通過作品に対して1から3位までの順位付けをする選好投票方式による審査を実施しました。選好投票の結果、優秀作品の候補が複数点あったため決選投票を実施し、その順位を決めました。なお、審査過程では提案者の名前を伏せ、審査を実施しています。

第2 審査対象作品について

参加表明書受付期間に46名から参加表明書の提出があり、全ての者が応募資格を満たしていることを確認しました。その内25名から、提案作品等の提出があり、全ての作品が募集要項を満たしていることを確認したため、25作品に対して審査を実施しました。

第3 一次審査の結果について

審査委員会にて、提案作品25作品のうち12作品を一次審査通過作品として決定しました。一次審査通過作品及び投票結果については以下のとおりです。

(1) 一次審査通過作品

登録番号・氏名（所属）

135・稲葉 侑太郎（九州工業大学）

200・黒沼 和宏、高塚 惇矢（横浜国立大学）

399・大崎 拓実、寺田 遼太郎（大成建設株式会社）

511・宮本 文若（大阪電気通信大学）

539・越智 誠（株式会社NAP 建築設計事務所）、

鮫島 卓臣（フリーランス）

587・林田 章吾、西村 香多郎（九州大学大学院）

650・川原田 健人（高松建設株式会社）

665・遠藤 輝（島根大学大学院）

778・高橋 仁志、岡田 月魚、橙 良汰（山口大学）

886・佐藤 唯乃、大澤 ことの、月花 真結、眞城 玲亜、鈴木 巴菜

（静岡県立浜松工業高等学校）

902・鈴木 遼太（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO）、

十文字 萌（株式会社日建設計）

978・村山 陽葉、秋本 美鈴（東北芸術工科大学）

(2) 投票結果

審査委員	投票作品（登録番号）			
A 委員	200	399	587	778
B 委員	539	587	665	978
C 委員	135	511	650	902
D 委員	200	399	886	902

第4 二次審査の結果について

審査委員会にて、一次審査通過作品に対して二次審査を実施し、最優秀作品等を決定しました。最優秀作品等及び審査結果については以下のとおりです。

(1) 最優秀作品等

◎最優秀作品

587・林田 章吾、西村 香多郎 (九州大学大学院)



(審査委員コメント)

- ・ファサードは、上部を金属製の外壁に縦格子風の凹凸面、下部を格子戸風に仕上げ、全体として落ち着いた「和」の建物でありつつも現代性を感じる。
- ・平面的に上手く処理されている。
- ・花の寺でもある東行庵の風景にマッチしたコンセプトとなっている。
- ・半透明のガラスによって、自然を感じさせつつ明るいトイレを実現できている。
- ・天井のガラスの清掃については配慮が必要と考えるが、半透明であえてシルエットをぼかすようなガラスにする等、汚れに対する設計上の工夫が必要。
- ・プライバシー確保のための配慮が必要。
- ・植栽の計画については、維持・管理についての検討が必要と思われる。
- ・植物や花が綺麗なのは東行庵の売りであり、景色を見せるようなデザインを評価した。
- ・落ち着いたデザインが良い。現代風「和」という感じ。
- ・手前にある売店との景観が調和している。

◎優秀作品

539・越智 誠（株式会社 NAP 建築設計事務所）、鮫島 卓臣（フリーランス）

木漏れ日の手水舎

高杉作伴の地である東行庵に木漏れい、手水舎を兼ねた公衆トイレを提案します。トイレの体裁を東行庵の一部と位置付け、木漏れいと合わせて木漏れいとして出れる人の心へ寄り添うように設計しました。

移ろゆく木漏れいと水のきらめきによって潤った手水鉢は、四季折々の表情を見せる東行庵と呼吸して出れる人の心へ寄り添うように設計しました。

利用者の利便性を高めるだけでなく「潤い」が得られるトイレなど、現代そして未来の生活様式を提案した。長年の知恵の結晶が建築です。

① 参拝の前後に手水舎を兼ねたトイレ
参拝の前後に手水舎を兼ねたトイレを提案します。東行庵の一部として出れる人の心へ寄り添うように設計しました。木漏れいと合わせて木漏れいとして出れる人の心へ寄り添うように設計しました。

② お清めを手水鉢と併せて体験する
お清めを手水鉢と併せて体験する。お清めの手水鉢と併せて体験する。お清めの手水鉢と併せて体験する。

③ みんなが使いやすい設備で分けるトイレ
みんなが使いやすい設備で分けるトイレ。みんなが使いやすい設備で分けるトイレ。みんなが使いやすい設備で分けるトイレ。

④ 防犯性を高める見通しのきく構成
防犯性を高める見通しのきく構成。防犯性を高める見通しのきく構成。防犯性を高める見通しのきく構成。

⑤ 静かで快適な居る空間
静かで快適な居る空間。静かで快適な居る空間。静かで快適な居る空間。

⑥ 様々なスケールの照明計画
様々なスケールの照明計画。様々なスケールの照明計画。様々なスケールの照明計画。

⑦ 多様な利用者に対応する手水鉢
多様な利用者に対応する手水鉢。多様な利用者に対応する手水鉢。多様な利用者に対応する手水鉢。

⑧ 防汚性と清潔性の高い素材
防汚性と清潔性の高い素材。防汚性と清潔性の高い素材。防汚性と清潔性の高い素材。

⑨ 温度をつくらない清掃計画
温度をつくらない清掃計画。温度をつくらない清掃計画。温度をつくらない清掃計画。

⑩ メンテナンスが容易な配置計画
メンテナンスが容易な配置計画。メンテナンスが容易な配置計画。メンテナンスが容易な配置計画。

木漏れいと水のきらめきで溢れる手水鉢の空間
多様なシーンと利用者を含み込むジャンパーフリーなトイレ
手水鉢の空間をドラマチックに演出するうねる大屋根
森に開かれた憩いの空間としての扉

（審査委員コメント）

- 基本的には切妻屋根であるが、前面側に深く葺き下げた曲面屋根は斬新である。
- 内側に手洗い場を配置し、トップライトにより明るさを確保しつつ、東行庵を訪れる人の精神的な高揚を図る意図が伺える。
- 正面に手洗いがあり、「清めの所作」を感じることを評価した。
- ジェンダーレスに配慮した平面計画が評価できる。
- 屋根に頭をぶつけることや、屋根に上る可能性があるため、実施設計時に配慮が必要。

◎入選作品

200・黒沼 和宏、高塚 惇矢 (横浜国立大学)

梅あかり

平面図 S=1:100

立面図 S=1:100

断面図 S=1:100

01. 東行庵の愛されるシンボルに
建物の形は、高杉晋作も愛した梅の花をモチーフとしました。その梅の花の五角形の形が平面構成、梅の花の花弁と顔との関係性が断面構成を合理的に構成し、快適で利便性の高いトイレを目指しました。そして、咲き誇る梅の花のように人々を魅了し、高杉晋作ゆかりの地である東行庵のシンボルとなり、地域の人や、東行庵を訪れる人から愛されるトイレになることを願っています。

02. 光を取り入れ、光を発する
昼間は、花びらと顔の間から自然光をふんだんに取り入れることで、トイレ従来のイメージである暗い室内ではなく、明るく快適な空間となります。一方で夜間は、室内の光が屋根に反射することで周囲に溢れ、安心感を与える、自印となるような場となります。

03. 風が抜ける換気性
湿気や臭いをごまかさないようにするために、ボリュームを分け、さらに屋根と壁の間に空隙を設けることで、自然と空気が抜けていくような環境をつくり、屋外公衆トイレ特有の湿気や臭いというイメージを払拭し、心理的にも利用しやすいトイレになるような計画とします。

04. 人が溜まる軒下空間
駐車場に向いている方向に対して大きな軒下空間を設けることで、トイレを待つ間、トイレから出てくる人を待つ間の居場所にもなります。

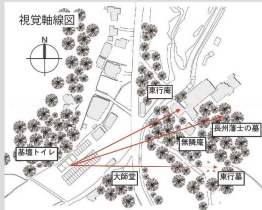
200

審査委員コメント)

- ・ 東行先生の好きな梅の花をモチーフにデザイン化し、奇抜でインパクトがある。
- ・ 利用者ごとのブースが使い方に別々に独立しているため、わかりやすく安全面も良い。
- ・ 高杉晋作の愛した梅の花をモチーフにしたデザインは東行庵と親和性が高い。
- ・ 梅の花を象った屋根や、親子のように独立した3つのユニットが可愛いシルエットを形成しており、性別・年齢を問わず幅広い層の方から愛されるものとなるのではないかと。
- ・ 東行庵を代表する梅の木がデザインされており評価した。愛されるシンボルは大事。老若男女問わず愛されると思う。
- ・ 面白い形態のデザインである。屋根等のデザインが面白い。

◎入選作品

778・高橋 仁志、岡田 月魚、橙 良汰 (山口大学)



基壇からの視線は高くなり、それは東行庵の東行葺や無開庵を
そして取り込まれた句碑の視線が視覚的につながり視覚軸線
を構成し、東行庵と一体化する。

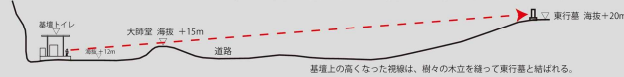
東行庵と呼応する基壇

高杉晋作ゆかりの地のシンボルとして

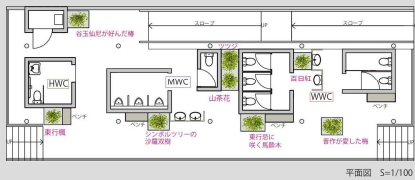
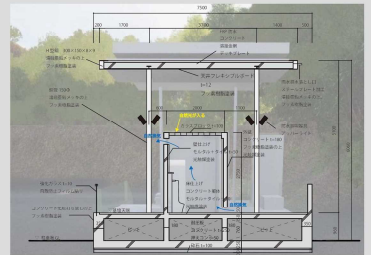
- 東行庵の環境との呼応** 本建物には、東行庵の四季を通じて咲き誇る「花の墓所」に調和する植栽・植栽を行い、東行庵と一体的な景観空間をつくる。
- 土地の記憶を交換** 駐車場の敷地は、その昔梅畑を初め歴代藩主も見たであろう緩やかな段々畑の記憶を想起させる。本建物においては、その緩やかな段々畑の傾斜の記憶を緩やかな小さな屋根を連ねることで呼び起こす。
- 東行庵への視覚的軸線の創出** 独立分散型トイレのベースとなる基壇は、駐車場の新たな空間領域となり地面から浮かび上がる。その基壇からの視線は高くなり、東行庵の東行葺や無開庵をそして取り込まれた句碑に視覚的に繋がり幕末の歴史や物語に思いを馳せることができる。そしてそれは、視覚的な軸線を構成し東行庵と一体化する。
- 独立分散型トイレの提案** トイレを独立分散化し配置することにより、個性ある様々なデザインのトイレブースが出現し、それが連なる屋根の下で一体化する景色は、高杉晋作が願った身分を超えた奇兵隊創設の考えに合致する。



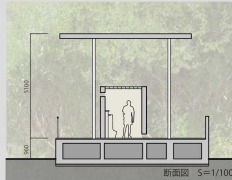
東行庵周辺の土地の記憶
昔の段々畑の記憶が蘇る。
1962年撮影
構造 分散型トイレ棟及び基壇・茶C造 床面積: 28.75㎡
ピロティ屋根及び柱・鉄骨造 建築面積: 89.4㎡



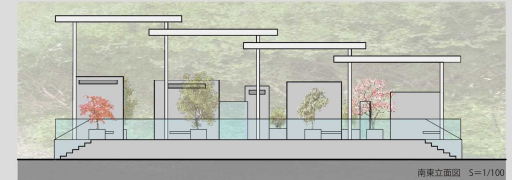
図型は、アールライトによるロッチ・屋根天井に反射された光が照明光が、
分散されたトイレ棟をゆるやかな小さな景観が基壇上に浮かび上がる。



独立分散型トイレは、従来のトイレにない開閉で明るい空間が生まれ快適性に寄与する。
独立分散型トイレ棟の基壇部には、スロープと階段が配されトイレへのアプローチをし易くする。
基壇上には休憩ベンチや樹々が配され施設利用者の利便性のみならず快適性にも考慮する。



基壇部の設置より基壇部床下空間は、
トイレ配管等のチェックやメンテナンスを容易にする。



分散型トイレ棟の基壇は、駐車場に浮かび上がり新たな空間領域を駐車場に形成させる。
トイレを独立分散化し配置することにより、様々な大きさの違うトイレブースが出現し、
それが連なる屋根の下で一体化する景色は、高杉晋作が願った身分を超えた奇兵隊創設の考えに合致する。

778

(審査委員コメント)

- ・過去の東行庵周辺の景観に思いを馳せたコンセプトは、提案されている植栽とあわせて、現代の東行庵にもマッチした景観となっている。
- ・各トイレが独立した形式をとることで、ひとつひとつのハコのサイズを抑えることができおり、圧迫感を感じさせない。
- ・植栽の計画については、維持・管理において検討が必要と思われる。
- ・他の提案者とは違った見方の「東行庵らしさ」を出している。昔の航空写真を出しての提案も面白い。維持管理は難しそうだが、色合いが良い。換気性も良さそうに思う。
- ・正面に階段があり、バリアフリーの観点で難点があると感じた。
- ・建物後ろにスロープがあり、階段は建物意匠として設置していると推察される。面白いデザインに感じる。

◎入選作品

902・鈴木 遼太 (MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO)、十文字 萌 (栞日建設)



(審査委員コメント)

- ・ 吉田周辺の民家の軒下を思わせる庇形状の控えめなデザインと東行庵に向かって斜に構えた配置が清々しく、裏山との一体感を持った四季の草木を楽しむ庭を配置し、周辺環境にも配慮している。
- ・ 視界を遮らない平面計画と手洗い空間の抜け感は開放感もあり安心感もある。
- ・ 一緒につくりあげるワークショップによる地域連携の提案も良い。
- ・ 良い意味で「昭和感」があり良い。軒裏に木材を使用しており、暖かみを感じる。
- ・ デザインが奇抜であるが、段々と馴染んでゆき良いものとなりそう。

(2) 審査結果

二次審査は一次審査を通過した全ての作品について、個別に審議を実施した後に、各委員が1位から3位までの順位付けをする選好投票を実施しました。1位に3点、2位に2点、3位に1点をそれぞれ付与し、総得点数が高いものから順に最優秀作品、優秀作品、入選作品として選定をしています。

(投票結果)

登録番号	総得点	得点状況						結果
135								
200	3	■	■	■				4位 (入選作品)
399	1	■						7位
511								
539	4	■	■	■	■			2位 (優秀作品候補)
587	7	■	■	■	■	■	■	1位 (最優秀作品)
650								
665								
778	4	■	■	■	■			2位 (優秀作品候補)
886								
902	3	■	■	■				4位 (入選作品)
978	2	■	■					6位

投票の結果、優秀作品の候補が2作品となったため、決選投票を実施しました。決選投票は各委員1票を持ち、より優れている作品に投票する方法としました。

(決選投票 投票結果)

登録番号	得票数	得票状況			結果
539	3	■	■	■	優秀作品
778	1	■			入選作品

投票者の色

A 委員	■
B 委員	■
C 委員	■
D 委員	■

第5 審査講評

本コンペは、東行庵という下関市の中でも歴史的に魅力のある観光地での建築コンペであった。「誰もが利用しやすく、高杉晋作ゆかりの地のシンボルとなるデザインで、東行庵周辺の魅力をより高める」という本コンペの趣旨から導き出される課題としては、大きく二つあったと思われる。一つ目は、地域性に対し、各提案者がどのような最適解を導いたのか。二つ目は、公共施設としての公衆トイレの機能が最適化されているかという点である。

提案作品を確認すると、提案者それぞれの解があった。一つ目の地域性から言えば、意匠を東行庵や周辺の環境に合わせたもの、東行庵等と軸線を結ぶもの、ボリュームを抑えるために小さい建物を群配置するものなど、様々な提案があった。二つ目の機能性で言えば、木の葉が屋根に溜まらないよう勾配を設けたもの、防犯性に配慮し、視線が一部抜けるように計画したもの、賛否はあったがジェンダーレスとして計画したものなどがあった。

審査は、前述の課題についての提案を総合的に判断し実施した。

最優秀提案作品等となった作品については、どの作品も地域との親和性だけでなく、公共施設としての維持管理の容易性やトイレとしての機能などを兼ねていた点を高く評価している。逆を言えば、コンセプトや見た目だけが良いもの、あるいは、機能だけが良いものは、低い評価となっている。

最後に、多くの方に本コンペにご参加いただいたことに対して謝意を表す。この度のデザインコンペにご参加された皆様は、27歳以下の若手技術者であり、これから本格的に活躍していかれることと拝察する。惜しくも受賞に至らなかった方も含め、本コンペで得た経験を今後に活かし、建築に関する様々な分野の発展に寄与していただけることを期待する。

令和5年3月30日
東行庵公衆トイレデザインコンペ審査委員会
委員長 田尾 繁